

日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会（第 25 期・第 4 回）議事要旨

1 日時 令和 5(2023) 年 6 月 12 日（月） 16:00~18:00

2 方法 遠隔会議（Zoom）

3 出席者

（会員）小池俊雄、佐竹健治、中村卓司

（連携会員）東久美子、久家慶子、中村尚、日比谷紀之、古屋正人

（特任連携会員）辻村真貴

4 議事

（1）シンポジウム「ようこそ社会水文学へー水と社会の相互作用を考えるー」の共同主催について（資料 1）

IAHS の辻村委員より、資料 1 に沿って上記の一般公開シンポジウム（9 月 3 日）について説明され、これに IUGG 分科会も主催団体の一つとなることが諮られ、承認された。

（2）IUGG の動向

IUGG Executive Committee (EC) メンバーでもある IASPEI President の佐竹委員から、IUGG 開催期間中の各種の Business meeting の流れについて説明された。EC meeting が 7 月 11 日、14 日の二回、各国の代表も参加する Council meeting が 7 月 12 日、15 日、18 日の三回である。一回目に新しい Bureau 選考委員会と候補者のメンバー、Statutes と By-law(会則)への変更案、次期 2027 年の IUGG 会場案が紹介される。二回目には各 Association 等からの各種の報告や予算報告が行われる。三回目に、次期 IUGG Officers、次期 IUGG 会場への投票が行われる。7 月 20 日に新しい IUGG EC の最初の Meeting がある。Inchon(韓国)と Honolulu(米国)が次回 IUGG 会場の候補であること、By-law(会則)の修正案への投票もあることが紹介された。

（3）IUGG 総会に向けての情報・意見交換（資料 2、3）

IUGG2023 における上記の Business meeting において、日本としての投票先をどうするかに関して、情報や意見交換を行った。

資料 2 に基づいて、次期 IUGG 執行役員候補者が示され、候補者に関する情報交換を行った。Association, Gender, Geography のバランスを考慮しつつ、東委員長に一任することになった。

資料 3 に基づいて、次回 IUGG2027 の開催地への投票に関して議論した。Inchon なら 7/12-22。Honolulu は AGU がホストをして 7/20-28 と少し短い。Hawaii については JpGU president からサポートレターが提出済みである。アジアになれば 2003 年の札幌以来であるが、中村(尚)委員から IAMAS/IAPSO が 2025 年に釜山で開催されること、日比谷委員か

ら AOGS が来年韓国で開催されるとの指摘もあった。中村(尚)委員から日程的には遅い方が大学院生には好都合であるとも指摘された。こちら東委員長に一任することとした。

By-law の修正については、執行役員に若手のメンバーを入れることが大きな変更であるが、これを含めてすべての修正を承認する方向になった。

(4) IUGG 分科会の活動について (資料4)

資料4に基づいて、IUGG 分科会の前回以降の活動について報告された。受賞関係として、IUGG 分科会で審議、推薦していた仲田典弘氏 (IASPEI) の Early Career Science Award の受賞と谷口真人氏 (IAHS) の Fellow 受賞が決定した。別途、日本から推薦されていた IUGG 分科会委員の日比谷紀之氏の Fellow 受賞も決定した。

IUGG 分科会から3名の派遣申請をしたが東委員長の1名分のみが認められた。

(5) IUGG 分科会の各小委員会の活動報告 (資料5)

IACS、IAG、IAGA、IAHS、IAMAS、IAPSO、IASPEI、IAVCEI の順に、資料5に基づき、各小委員会の活動報告があった。

2023-2027 年期の IACS 執行委員への日本からの応募者はいなかった。IAG 執行委員の Member-at-large の一人として古屋委員が選出された。IAGA からは代表派遣に2件申請して、両方不採択だった。IAHS2025 に東海国立大学機構を主管とする日本開催を立候補していたが、インドに決まったことが報告された。IAHS 執行委員に日本から3名 (President 1名、Vice president 2名) が推薦されている。IAMAS 関係では2021年に予定されていて cancel された IAMAS/IAPSO/IACS の joint assembly が釜山で2025年に開催されることが報告された。IAPSO では、次期 EC メンバーとして、Vice-president として一名、メンバーとして一名が推薦されている。

各小委員会の関連学会で IUGG2023 への参加の呼びかけが行われている。

(6) 次期 IUGG 分科会の体制について

本分科会のうち、6名 (中田委員、中村(卓)委員、中村(尚)委員、日比谷委員、久家委員、佐竹委員) は 25-26 期の会員/連携会員である。次期 IUGG 分科会の世話人として佐竹委員が就任することが承認された。

全ての小委員会で25期の任期は2023年9月で満了となることから、10月からの第26期の小委員会の発足に向けた次期委員の選出を進める必要があることが確認された。

(7) 日本学術会議の動向

佐竹委員より日本学術会議法の法律改正案の提出は見送られたこと、第26期会員・連携

会員の選考が進んでいること等が報告された。

中村（卓）委員より、「未来の学術振興構想」を学術会議の提言としてまとめる作業に入っていることが報告された。（学術会議とは無関係に）文部科学省による大型研究プロジェクトの推進に関する基本構想の公募が始まっていることも報告された。

中村（尚）委員より、カーボンニュートラルに関する連絡会議について、この一年は会議が開催されていないことが報告された。

（８）IYBSSD の動向

佐竹委員から、国連とユネスコが去年からの１年間を IYBSSD (International Year of Basic Science for Sustainable Development) としており、IUGG も参加メンバーであることから、今年の JpGU で「持続可能な発展のための国際基礎科学年と地球惑星科学の貢献」と題して、ユニオンセッションを実施したことが報告された。地球惑星科学以外に物理、数学、生物科学分野から講演者による発表があった。

（９）その他